

MUFG Focus USA Weekly

経済調査室 ニューヨーク駐在情報

MUFG Union Bank, N.A. Economic Research NY
Hiroshi Kurihara | 栗原 浩史 (hikurihara@us.mufg.jp)
Director and Chief U.S. Economist

11月の議会選挙の行方

【要旨】

- ◇ 11月3日には大統領選挙と同時に議会選挙も実施される。上院は2年毎に3分の1議席が改選されるが、今回は3分の1議席である33議席に2つの特別選挙が加わって計35議席が改選される。下院は2年毎に全議席が改選される。
- ◇ 上院で今回改選される35議席の内訳（現職）は、共和党議席が23、民主党議席が12である。最近では民主党が上院で多数を奪還するのではないかとの見方も増えているが、候補者自身の強さの評価に基づくとの印象は必ずしも受けない。というのは、改選される議席夫々の選挙予測をみると、共和党の議席維持が危ぶまれている州は、大統領選挙で共和党支持が明らかな州（レッド・ステート）も一部あるが、その多くは大統領選挙で民主党支持が明らかな州（ブルー・ステート）乃至今回の大統領選挙で接戦の可能性が指摘されている州と捉えられるからである。結局、当該州としてトランプ大統領（共和党）とバイデン候補（民主党）のどちらを支持するかが上院選挙の結果にも大きな影響を与えることになりそうである。
- ◇ 下院は、民主党が引き続き多数を占めるとの見方が現時点では多い。現職が有利とされるなか引退等で再選を目指さない下院議員が民主党よりも共和党で多い点や選挙制度（下院は人口に応じて議席が配分される）等を踏まえると、現在の共和党にとって下院で多数を制するハードルが上院よりも高いことは確かであろう。なお、過去の選挙結果を振り返ると、米国で大統領の所属政党と議会の多数党が異なることは珍しくないが、どちらかと言えば政権発足から時間が経つに従いそうなりやすい。近年のオバマ政権やトランプ政権をみても政権発足当初は上下両院で与党が多数を占めており、今回バイデン氏が勝利した場合に民主党が両院で多数を占める展開も十分考えられる。
- ◇ 選挙後の政策運営について、大統領の所属政党と議会の多数党が異なる状況下でも過去は与野党が妥協乃至協力して政策が推進されてきた。しかしながら近年は両党の対立・分断が強まっているため、トランプ大統領とバイデン氏のどちらが勝利しても、そうした状況になるようであれば政策推進は容易ではないとみられる。

大統領選挙に加えて議会選挙の行方も注目される

11月3日には大統領選挙と同時に議会選挙も実施される。上院（定数100議席）は2年毎に3分の1議席が改選されるが、今回は3分の1議席である33議席に2つの特別選挙が加わって計35議席が改選される。下院（定数435議席）は2年毎に全議席が改選される^{（注1）}。

現在、上院では共和党議席が53、民主党議席が47で共和党が多数を占めており^{（注2）}、下院では共和党議席が198、民主党議席が232、リバタリアン党議席が1、空席が4で民主党が多数を占めている。上院では民主党が現行から4議席積み増せば多数を占めることができ、下院では共和党が現行から18議席積み増せば多数を占めることができる。

（注1）任期は上院が6年、下院が2年である。議席は、上院では各州に2議席配分され、下院では人口に応じて各州（の選挙区）に配分される（人口が少ない州に対しても最低1議席は付与される。人口の変動は10年毎の国勢調査を基にして議席数に反映される）。なお、大統領選挙において各州に割り当てられる選挙人数は当該州の上院議席数と下院議席数の合計である（50州に加えて上下院で議席を持たないワシントンD.C.にも大統領選挙では選挙人数3が割り当てられる）。

（注2）民主党議席には民主党系無所属の2議席を含む。

今回の上院選挙は改選議席の少ない点では民主党に有利

上院で今回改選される35議席の内訳（現職）は、共和党議席が23、民主党議席が12であり、改選議席が少ない点では民主党に有利である（次頁第1表）。このうち現職が再選を目指さない議席は4つある（共和党議席が3、民主党議席が1）^{（注3）}。現在はまだ両党の候補者を絞り込む予備選挙が全ての州で終了しておらず、今後6州で予備選挙が実施される。

最近では民主党が上院で多数を奪還するのではないかとの見方も増えているが、候補者自身の強さの評価に基づくとの印象は必ずしも受けない^{（注4）}。というのは、改選される議席夫々の（世論調査等に基づく）選挙予測をみると、共和党の議席維持が危ぶまれている州は、大統領選挙で共和党支持が明らかな州（レッド・ステート）も一部あるが、その多くは大統領選挙で民主党支持が明らかな州（ブルー・ステート）乃至今回の大統領選挙で接戦の可能性が指摘されている州と捉えられるからである^{（注5）}。

結局、当該州としてトランプ大統領（共和党）とバイデン候補（民主党）のどちらを支持するかが上院選挙の結果にも大きな影響を与えることになりそうである。

（注3）共和党は再選を目指す現職が全て議席を維持すれば半数（50）は確保できる（票決時は副大統領票を含めるので、過半数になるかどうかは大統領選の結果に拠る）。

（注4）候補者の擁立について、民主党はアーカンソー州で失敗している（現職の共和党コットン議員の対戦相手は二大政党以外の候補者のみとなる）。

（注5）共和党の議席維持が危ぶまれている州について、レッド・ステーツではモンタナ州、ブルー・ステーツではメイン州やコロラド州、今回の大統領選挙で接戦の可能性が指摘されている州ではアイオワ州やアリゾナ州が挙げられる（予測機関によって見解は区々である）。

第1表:11月選挙で改選される上院35議席

選出州	現職	所属 政党	備考	予備選挙の結果		リアルクリア・ ポリティクス の予測	備考
				共和党候補	民主党候補		
1 アイオワ	ジョニ・アーネスト	共和	-	現職	テレサ・ グリーンフィールド	五分五分	民主党候補グリーンフィールド氏は不動産開発会社を経営
2 アイダホ	ジム・リッシュ	共和	-	現職	ポーレット・ ジョーダン	共和党優勢	現職の共和党リッシュ氏は元アイダホ州知事で、2009年より 上院議員
3 アーカンソー	トム・コットン	共和	-	現職	(候補者無し)	共和党優勢	民主党は予定されていた候補者が登録締切直前に出馬を 取り止め。この結果、現職コットン氏の対戦相手は二大政 党以外の候補者のみに
4 アラスカ	ダン・サラバン	共和	-	(8月18日に予備選挙)		共和党優勢	現職の共和党サラバン氏はアラスカ州司法長官等を経て、 2015年より上院議員
5 アラバマ	ダグ・ジョーンズ	民主	-	トミー・タバヴィル	現職	共和党優勢	共和党予備選挙ではセッションズ元司法長官がタバヴィル 氏に敗北。タバヴィル氏はカレッジフットボール(大学 アメフト)の元監督(アラバマ州のアーバン大学等)
6 アリゾナ	マーサ・マクスリー	共和	特別選挙	現職	マーク・ケリー	五分五分	現職の共和党マクスリー氏は、ジョン・カイル議員の辞任に 伴いアリゾナ州知事が指名して就任
7 イリノイ	ディック・ダービン	民主	-	マーク・カーラン	現職	民主党優勢	現職の民主党ダービン氏は上院少数党院内幹事
8 ウェスト バージニア	シェリー・キャピト	共和	-	現職	ポーラ・ジーン・ スウェアリンギン	共和党優勢	現職の共和党キャピト氏は下院議員を経て、2015年より 上院議員
9 オクラホマ	ジム・インホフ	共和	-	現職	アビー・プロイolz	共和党優勢	現職の共和党インホフ氏は1994年から上院議員を務め、現 在は上院軍事委員長
10 オレゴン	ジェフ・マークリー	民主	-	ジョー・レイ・ パーキンズ	現職	民主党優勢	現職の民主党マークリー氏はオレゴン州議会の下院議長 等を経て、2009年より連邦上院議員
11 カンザス	パット・ロバーツ	共和	再選 目指さず	ロジャー・ マーシャル	バーバラ・ポリエー	共和党優勢	共和党候補マーシャル氏は連邦下院議員。民主党候補ポ リエー氏はカンザス州議会の上院議員
12 ケンタッキー	ミッチ・マコネル	共和	-	現職	エイミー・マグラス	共和党優勢	現職の共和党マコネル氏は上院院内総務
13 コロラド	コリー・ガードナー	共和	-	現職	ジョン・ ヒッケンルーバー	五分五分	民主党候補ヒッケンルーバー氏は元コロラド州知事
14 サウス カロライナ	リンゼー・グラム	共和	-	現職	ハイメ・ハリソン	五分五分	現職の共和党グラム氏は上院司法委員長
15 サウスダコタ	マイク・ラウンズ	共和	-	現職	ダン・アーラース	共和党優勢	現職の共和党ラウンズ氏は元サウスダコタ州知事で、2015 年より上院議員
16 ジョージア	デビッド・ パーデュー	共和	-	現職	ジョン・オソフ	五分五分	民主党候補オソフ氏はジャーナリストで調査報道会社(Ins ight TWI)の最高経営責任者(CEO)
17 ジョージア	ケリー・ロフラー	共和	特別選挙	(候補者を絞り込まずに 11月3日に選挙を実施)		やや 共和党優勢	現職の共和党ロフラー氏は、ジョニー・アイザクソン議員の 辞任に伴いジョージア州知事が指名して就任
18 テキサス	ジョン・コーニン	共和	-	現職	メアリー・ヘーガー	やや 共和党優勢	民主党候補ヘーガー氏は退役軍人(空軍)
19 テネシー	ラマー・ アレクサンダー	共和	再選 目指さず	ビル・ハガティ	マルキタ・ ブラッドショー	共和党優勢	共和党候補ハガティ氏は前駐日大使。民主党候補ブラ ッドショー氏はメンフィス出身の環境活動家
20 デラウェア	クリストファー・ クーンズ	民主	-	(9月15日に予備選挙)		民主党優勢	現職の民主党クーンズ氏は2010年より上院議員。なお、デ ラウェア州は民主党の大統領候補バイデン氏の地元
21 ニュー ジャージー	コーリー・ブッカー	民主	-	リキン・メータ	現職	民主党優勢	現職の民主党ブッカー氏は2020年の民主党大統領候補指 名争いに出馬
22 ニュー ハンプシャー	ジーン・シャヒーーン	民主	-	(9月8日に予備選挙)		やや 民主党優勢	現職の民主党シャヒーーン氏は元ニューハンプシャー州知事 で、2009年より上院議員
23 ニューメキシコ	トム・ユードル	民主	再選 目指さず	マーク・ ロンチェッティ	ベン・レイ・ルーハン	やや 民主党優勢	共和党候補のロンチェッティ氏は気象学者としてTVで活躍 。民主党候補のルーハン氏は下院議員
24 ネブラスカ	ベン・サス	共和	-	現職	クリス・ヤニセック	共和党優勢	現職の共和党サス氏はネブラスカ州にあるミッドランド大学 の元学長で、2015年より上院議員。トランプ大統領はサ ス氏を「名ばかりの共和党員(RINO)」と批判
25 ノース カロライナ	トム・ティリス	共和	-	現職	カル・カニングハム	五分五分	民主党候補カニングハム氏はイラク戦争等に従軍(陸軍)。 ノースカロライナ州議会の元上院議員
26 バージニア	マーク・ワーナー	民主	-	ダニエル・ゲイド	現職	民主党優勢	現職の民主党ワーナー氏は元バージニア州知事で、2009 年より上院議員
27 マサチュー セッツ	エド・マーキー	民主	-	(9月1日に予備選挙)		民主党優勢	現職の民主党マーキー氏は下院議員を長年務めた後、20 13年より上院議員
28 ミシガン	ゲイリー・ ピーターズ	民主	-	ジョン・ジェイムズ	現職	五分五分	現職の民主党ピーターズ氏は下院議員を経て2015年より 上院議員
29 ミシシッピ	シンディ・ハイド・ スミス	共和	-	現職	マイク・エスピー	共和党優勢	民主党候補エスピー氏は元農務長官
30 ミネソタ	ティナ・スミス	民主	-	ジェイソン・ルイス	現職	やや 民主党優勢	現職の民主党スミス氏は元ミネソタ州副知事で、2018年より 上院議員
31 メーン	スーザン・コリンズ	共和	-	現職	サラ・ギデオン	五分五分	民主党候補ギデオン氏はメーン州議会の下院議長
32 モンタナ	ステイブ・ デインズ	共和	-	現職	ステイブ・ブロック	五分五分	民主党候補ブロック氏は元モンタナ州知事で、2020年の民 主党大統領候補指名争いに出馬
33 ルイジアナ	ビル・カシディ	共和	-	(候補者を絞り込まずに 11月3日に選挙を実施)		共和党優勢	現職の共和党カシディ氏は下院議員を務めた後、2015年 より上院議員
34 ロード アイランド	ジャック・リード	民主	-	(9月8日に予備選挙)		民主党優勢	現職の民主党リード氏は1997年から上院議員で、上院軍 事委員会所属
35 ワイオミング	マイク・エンジ	共和	再選 目指さず	(8月18日に予備選挙)		共和党優勢	引退する現職の共和党エンジ氏は1997年から上院議員を 務め、現在は上院予算委員長

(資料)リアルクリア・ポリティクス、各種報道・資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

下院は民主党が引き続き多数を占めるとの見方が現時点では多い

下院については、民主党が引き続き多数を占めるとの見方が現時点では多い。現職が有利とされるなか引退等で再選を目指さない下院議員が民主党よりも共和党で多い点や選挙制度（下院は人口に応じて議席が配分される）等を踏まえると、現在の共和党にとって下院で多数を制するハードルが上院よりも高いことは確かであろう。

なお、過去（第二次世界大戦後）の選挙結果を振り返ると、米国で大統領の所属政党と議会の多数党が異なることは珍しくないが、どちらかと言えば政権発足から時間が経つに従いそうなりやすい。近年のオバマ政権やトランプ政権をみても政権発足当初は上下両院で与党が多数を占めており（次頁第2表）^(注6)、今回バイデン氏が勝利した場合に民主党が両院で多数を占める展開も十分考えられる。

また、トランプ大統領が再選する場合について、議会における多数党の組み合わせは、①「上下院：共和党」、②「上下院：民主党」、③「上院：共和党、下院：民主党」、④「上院：民主党、下院：共和党」の4通りがあり得るが、④のケース（政権与党が下院のみ多数を占めるケース）は再選時に限らず過去には殆どみられていない^(注7)。これは、選挙制度の違い等から上院の方が大統領選挙の結果と類似し易いためと考えられる。

（注6）民主党候補が勝利した大統領選挙のうち、ハリー・トルーマン大統領が勝利した1948年とリンドン・ジョンソン大統領が勝利した1964年については、前任の任期途中で既に大統領職が両者へ引き継がれていたことを踏まえると、実質的に2期目の選挙だったとも言える。

（注7）共和党のジョージ・W・ブッシュ政権下で上院の多数党が民主党、下院の多数党が共和党だったことがあるが、これは2001年の会期中に共和党を離党した上院議員がいたためである。選挙結果の段階（会期初時点）での上院議席は、共和党が50、民主党が50で同数であった（副大統領が上院議長を兼務するため共和党が多数党であった）。

大統領の所属政党と議会の多数党が異なる状況下での政策運営は容易ではない

最後に選挙後の政策運営について、大統領の所属政党と議会の多数党が異なる状況下でも過去は与野党が妥協乃至協力して政策が推進されてきた。しかしながら近年は両党の対立・分断が強まっているため、トランプ大統領とバイデン氏のどちらが勝利しても、そうした状況になるようであれば政策推進は容易ではないとみられる。

第2表:大統領選挙・議会選挙の結果

選挙年	大統領選挙の結果	所属政党	上院議席数			下院議席数		
			共和党	民主党	他政党・無所属	共和党	民主党	他政党・無所属
1944	フランクリン・ルーズベルト	民主	38	57	1	190	243	2
1946	-		51	45		246	188	1
1948	ハリー・トルーマン	民主	42	54		171	263	1
1950	-		47	48	1	199	234	2
1952	ドワイト・アイゼンハワー	共和	48	46	2	221	213	1
1954	-		47	48	1	203	232	
1956	ドワイト・アイゼンハワー	共和	47	49		201	234	
1958	-		34	64		153	283	
1960	ジョン・ケネディ	民主	36	64		175	262	
1962	-		33	67		176	258	
1964	リンدون・ジョンソン	民主	32	68		140	295	
1966	-		36	64		187	246	
1968	リチャード・ニクソン	共和	42	58		192	243	
1970	-		44	54	2	180	255	
1972	リチャード・ニクソン	共和	42	56	2	192	239	1
1974	-		37	61	2	144	291	
1976	ジミー・カーター	民主	38	61	1	143	292	
1978	-		41	58	1	157	276	
1980	ロナルド・レーガン	共和	53	46	1	192	243	
1982	-		54	46		166	268	
1984	ロナルド・レーガン	共和	53	47		182	252	
1986	-		45	55		177	258	
1988	ジョージ・H・W・ブッシュ	共和	45	55		174	259	
1990	-		44	56		167	267	1
1992	ビル・クリントン	民主	43	57		176	258	1
1994	-		53	47		230	204	1
1996	ビル・クリントン	民主	55	45		227	207	1
1998	-		55	45		223	211	1
2000	ジョージ・W・ブッシュ	共和	50	50		221	211	2
2002	-		51	48	1	229	205	1
2004	ジョージ・W・ブッシュ	共和	55	44	1	232	201	1
2006	-		49	49	2	202	233	
2008	バラク・オバマ	民主	41	55	2	178	256	
2010	-		47	51	2	242	193	
2012	バラク・オバマ	民主	45	53	2	233	200	
2014	-		54	44	2	247	188	
2016	ドナルド・トランプ	共和	52	46	2	241	194	
2018	-		53	45	2	199	235	

(注) 議席数における網掛け部分は、議席が上回った政党。議席数は会期初日の数値。
(資料) Brookings、各種資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

(2020年8月12日 栗原 浩史 hikurihara@us.mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。

The information herein is provided for information purposes only, and is not to be used or considered as an offer or the solicitation of an offer to sell or to buy or subscribe for securities or other financial instruments. Neither this nor any other communication prepared by MUFG Bank, Ltd. (collectively with its various offices and affiliates, "MUFG Bank") is or should be construed as investment advice, a recommendation to enter into a particular transaction or pursue a particular strategy, or any statement as to the likelihood that a particular transaction or strategy will be effective in light of your business objectives or operations. Before entering into any particular transaction, you are advised to obtain such independent financial, legal, accounting and other advice as may be appropriate under the circumstances. In any event, any decision to enter into a transaction will be yours alone, not based on information prepared or provided by MUFG Bank. MUFG Bank hereby disclaims any responsibility to you concerning the characterization or identification of terms, conditions, and legal or accounting or other issues or risks that may arise in connection with any particular transaction or business strategy. While MUFG Bank believes that any relevant factual statements herein and any assumptions on which information herein are based, are in each case accurate, MUFG Bank makes no representation or warranty regarding such accuracy and shall not be responsible for any inaccuracy in such statements or assumptions. Note that MUFG Bank may have issued, and may in the future issue, other reports that are inconsistent with or that reach conclusions different from the information set forth herein. Such other reports, if any, reflect the different assumptions, views and/or analytical methods of the analysts who prepared them, and MUFG Bank is under no obligation to ensure that such other reports are brought to your attention.